

福祉型障害児入所施設 熊本ライトハウス 2022年度 事業報告

1 総括

2022年度は、昨年に引き続きコロナ禍の中、大きな行事や活動が中止になり、学校も休校になるなど、児童にとっては、我慢を強いられる1年であった。そのような中、当施設においても児童や職員にコロナの陽性者が発生したため、業務に大きな影響を及ぼした。また、短期入所、日中一時支援については利用を制限するなど、本来のあるべき姿を取り戻すまでは、まだまだ時間を要すると思われる。しかしながら、必要に応じての対策会議の開催、環境整備、予防等を職員全員で協力しながら乗り切る事が出来たのは、チーム一丸となった結果であり、大きな自信となった。

児童については、現員18名（定員20名）でスタートし、2023年3月には、1名の卒園生を無事に送り出すことが出来た。障がいが多様化し個別の対応が複雑になる中、児童の健やかな成長、安全・安心な生活、自律生活能力の向上が実現出来るよう留意し、必要な支援を行った。

職員については、4名の新任職員を迎え、業務体制も一新した。そのような中、業務内容の見直しを図り、職員の業務負担軽減やより良い支援方法の在り方の検討に着手したが、新人教育や支援困難な児童への対応などに追われ、目に見えた進展は見られなかった。

「さんさん」の利用については、月に一度の食育活動を行っていたが、コロナの影響で活動中止を余儀なくされた。

2 主な取組とその評価

(1) 児童中心の支援

- コロナ感染予防対策、環境整備
 - ・ リスクレベルに合わせて対策会議を開き、課題検討・情報発信に努めた。また、陽性者が発生した時には、迅速に対応して、感染拡大を防いだ。
 - ・ 学校休校時のリモート事業の対応や課題学習についてチェックを行い、児童の家庭学習を支援した。
 - ・ 児童の帰省時の体温の記録、消毒の徹底、抗原検査を行い、予防対策を十分に行った。
- ホーム会議の実施を定期的に行う
 - ・ 児童を中心とした会議を毎月開催し、児童からの意見を聞き取るなどして、生活環境の改善、苦情対応などを行うことが出来た。
- 児童への面談、アンケートの実施
 - ・ アンケートは1度実施したが、形骸化したものであったため、内容を今後検討してい

く必要がある。面談については必要に応じて行っているが、定期的な開催には至っていない。

- 食育活動の実施
 - ・ コロナ禍の中、「さんさん」を利用した食育活動はほとんど出来なかった。
- 性問題の取組
 - ・ 児童の性の問題に関して、勉強会等行ったが、児童の理解度については十分と言えない。このことについては、やり方、方法等今後の課題である。

重点目標	評価	実績等
児童中心の支援	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染予防対策、環境整備 ・ ホーム会議の実施を定期的に行う ・ 児童への面談、アンケートの実施 ・ 食育活動の実施 ・ 性問題の取組

◎達成できた、○ある程度は達成できた、△（あまり）達成できなかった（以下同様）

(2)組織力強化

- 全体リーダー会の実施
 - ・ のぞみを含めたリーダー全員で、現在施設が抱えている問題点について協議を行った。業務上の悩みなど活発な意見交換が出来、一定の成果を上げることが出来た。
- 就業規則等諸規則の理解促進
 - ・ 業務改革、労務管理を行う上で、就業規則等諸規則の理解について指導を行ってきたが、完全に理解したとは言えず、次年度への課題となった。
- 施設長による個別面談の実施
 - ・ 施設長による個別面談を年2回行った。
- 研修への積極的参加
 - ・ 与えられた研修への参加は出来ているが、サポーターズカレッジ等自ら進んで参加する行動は出来ていない。
- のぞみホームとの協働
 - ・ のぞみリーダーがライトハウスを体験し、職場の問題点に対する助言を行った。

重点目標	評価	実績等
組織力の強化	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就業規則等諸規則の理解促進 ・ 施設長による個別面談の実施 ・ 研修への積極的参加 ・ のぞみホームとの協働

(3) 持続的な経営の安定化を図る

- 新型コロナウイルス感染症対応、災害時 BCP の定期的見直し・実践研修
 - ・ 感染状況拡大に伴い、感染対策委員会を必要に応じ開催し、都度対応を行った。災害時 BCP 見直しについては検討に至っていない。
- 虐待防止研修・身体拘束等の適正化のための委員会・研修
 - ・ 職員セルフチェックリストの実施を行った。
 - ・ 全体職員会議にて身体拘束について考えるグループワークを実施した。
 - ・ 虐待防止委員会・身体拘束等適正化委員会の定期的開催を行った。
- ICT 化の情報収集等
 - ・ ICT 化導入については、検討段階で具体的施策までは至っていない。
- 財務分析の周知
 - ・ 財務分析の職員周知までは出来ていない。
- 労務管理の徹底
 - ・ 働き方改革による業務内容の見直しに着手し、継続した取組を行っている。
 - ・ 全職員が 4 連休を取得した。

重点目標	評価	実績等
持続的な経営の安定化を図る	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症対策 BCP の定期的見直し・実践研修 ・ 虐待防止研修・身体拘束等の適正化のための委員会・研修 ・ ICT 化の情報収集等 ・ 財務分析の周知 ・ 労務管理の徹底

(4) 地域社会と協働して児童を育む

- 地域子ども会との連携
 - ・ 子ども会活動には、会員の児童は積極的に参加した。また、子ども会主催の廃品回収の収集場所として施設駐車場を貸与するなど、子ども会活動をサポートした。
- 養護児童との交流
 - ・ 児養協スポーツ大会に参加。他施設の養護児童との交流を深めた。

重点目標	評価	実績等
地域社会と協働して児童を育む	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域子ども会との連携については、十分に行うことが出来た ・ 養護児童との交流については、出来る範囲での交流は出来た

3 サービスの利用状況

(1) 措置・契約

◇ 措置・契約児童の利用日数

措置・契約の月別利用延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
措置	289 (312)	303 (349)	294 (325)	303 (344)	283 (277)	289 (330)	287 (332)	296 (298)	285 (291)	282 (301)	276 (336)	292 (318)	3479 (3813)
契約	178 (215)	204 (248)	221 (265)	171 (226)	60 (91)	192 (261)	222 (272)	223 (258)	193 (228)	181 (210)	211 (222)	175 (163)	2231 (2659)
計	467	507	515	474	343	481	509	519	478	463	487	467	5710
※	77	81	85	75	55	80	82	86	77	74	86	75	78

() 数字は前年度 ※稼働率 %

(2) 短期入所・日中一時支援

◇ 短期・日中一時支援の利用日数

- ・ 短期・日中一時支援については、コロナ禍の影響で受入を制限しており、前年度と比較すると大幅に縮小した

短期入所・日中一時の月別利用延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
日中	6 (36)	17 (33)	15 (45)	6 (26)	0 (0)	13 (0)	19 (47)	17 (36)	12 (44)	12 (26)	17 (0)	16 (0)	150 (293)
短期	0 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (8)	0 (8)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (32)

() 数字は前年度

4 苦情対応の状況

◇ 苦情対応

苦情件数 2件 (児童より職員へ)

➤ 内容

- コロナのレベルが最高値になり帰省が出来ない・買い物に行けない。
- ライトハウスの生活が前よりも楽しくない。先生方甘いです。なぜかというところびっ子たちの環境がやさしいばかりで悪いことばかりしている。この二つ本当にお願ひします。

➤ 対応

● ホーム会を開き児童に説明

苦情に対しては、月1回開催しているホーム会で意見交換や説明を行っている。コロナ禍の制限のある集団生活での窮屈さや不満が多くある中で、日頃の関わりの中で児童へ納得のいく説明を行い、他児の障がい特性への理解を求めている。また意見箱の活用の奨励も引き続き行っていく。

◇ ヒヤリハット・インシデントレポート・事故報告

ヒヤリハット 78件

インシデントレポート 64件

- ・他害 23件
- ・破壊 5件
- ・自傷 2件
- ・離設 11件
- ・異食 7件
- ・怪我 1件
- ・転倒 1件
- ・拘束 1件
- ・誤薬 3件
- ・落葉 4件
- ・薬その他 3件
- ・備品持ち帰り 3件

事故報告	5件
(内訳)	
● 離設	3件
● 外傷	1件
● 身体拘束	1件

・個別案件については、リスクマネジメント委員会に報告を行い、対応を行っている。また、熊本市・児童相談所への報告も行い都度協議も行う。常に事故0を目指し、職員の研修等常に行っていく

5 主な行事

◇ 月別行事

5月	たけのこ掘り 観劇
8月	夏祭り 平山温泉 餃子づくり キッチンカー
10月	親善秋季スポーツ大会 ハロウィーン
11月	動植物園訪問 味千ラーメンキッチンカー来園
12月	クリスマス会 忘年会 もちつき
3月	ボウリング大会 観劇 お別れ会

6 研修の実施状況

◇ 研修内容

4月	法人新任研修
6月	九州児童福祉施設職員研修大会

7月	行動問題に関する研修会
	発達障がい者支援センターみなわ 性教育 性と関係性
9月	職業指導員 自立支援勉強会
10月	福祉職員キャリアパス対応障がい研修課程初任者コース
	福祉職員救急法研修
11月	強度行動障がい支援者養成研修（基礎・実践）
12月	交流分析（エゴグラム）を活用した成長し続けるチーム作りのヒント
	熊本県知的障がい者施設協会 BCP研修 利用者のQOLを低下させない生活継続のために
1月	強度行動障がい支援者養成研修（基礎・実践）
	全国盲ろう難聴児施設協議会 東日本研修会
	職業指導員 自立支援勉強会
	新型コロナウイルス感染防止対策研修会
	内部中堅職員サポカレ研修
2月	養協 ケアワーカー部会冬季研修会
	養協 給食担当者部会春季研修会
	熊本県障がい者虐待防止・権利擁護研修
	行動問題に関する研修会
	内部中堅職員サポカレ研修
3月	熊本市防災協会 火災から「命を守る」避難
	強度行動障がい支援者養成研修（基礎・実践）
	交流分析（エゴグラム）を活用した成長し続けるチーム作りのヒント

7 施設整備等

◇整備内容

- ・居室壁面クッション材取り付け工事（クールダウン用） 599,700円
- ・台所窓改修工事（玄関出入りの見通しをよくするため） 462,000円
- ・浴室入口改修工事（老朽化による取替え）男子・女子各 425,000円

8 その他

◇防災について

防火避難訓練を毎月行った。利用者が素早い避難が出来るよう、避難経路の確認や的確な避難指示が出来るよう心がけた。まだまだ課題は多く、一つ一つを克服出来るよう今後も真剣に取り組んでいきたい。